

Pathophysiological decrease in the regional cerebral blood flow in Hashimoto's encephalopathy:a multiple-case SPECT study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-08-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村松, 倫子, Muramatsu, Tomoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/8453

学位論文審査の結果の要旨

※ 整理番号		ふりがな 氏名	むらまつ ともこ 村松 倫子
学位論文題目	Pathophysiological decrease in the regional cerebral blood flow in Hashimoto's encephalopathy: a multiple-case SPECT study (橋本脳症における病態生理に関わる局所脳血流低下：複数例のSPECTによる検討)		
審査委員	主査	木村 浩嘉	
	副査	菊田 健一郎	
	副査	中本 右成	
<p>橋本脳症は、急性または慢性に意識障害、精神病様症状、痙攣、認知機能低下、小脳失調などを呈し、免疫療法が奏功する自己免疫性の精神神経疾患である。申請者らの研究チームは、2005年に橋本脳症患者血清中に、α-enolaseのN末端側に特異的に反応する自己抗体（抗NAE抗体）を同定して本症の診断マーカーとして提唱し、全国より症例が集積している。これまで病態に関する検討は症例報告に限定されており、病理学的所見から脳皮質の小血管炎によって微小循環が障害されることが推察されていた。そこで、本研究は多数例の橋本脳症患者における脳^{123}I-IMP SPECTを検討し、橋本脳症における病態生理に関わる脳血流変化を機能的かつ定量的に明らかにすることを目的とした。</p> <p>神経・精神症状を呈し、抗甲状腺抗体陽性、ステロイド治療に反応、他の疾患が除外され、抗NAE抗体陽性の橋本脳症患者7例（男性3例、女性4例、年齢66.3 ± 14.3歳）と、健常者10例（男性4例、女性6例、年齢61.0 ± 2.9歳）を対象とした。治療前の患者群と健常者群の脳血流SPECTを3D-SSPを用いて統計学的手法により定量し、患者群と健常者群での脳血流変化を比較検討した。さらに、患者群7例のうち、急性の意識混濁、幻覚・妄想などの精神病様症状を呈した5例と健常者群を比較検討した。</p> <p>患者群7例と健常者群の比較では、患者群において左前頭前皮質と両側前部帯状回に有意な局所脳血流の低下が見出された（$P < 0.05$）。本所見は、他の自己免疫性疾患に伴う脳症の脳血流SPECTにおける前頭葉・頭頂葉・側頭葉の血流低下に比較して、橋本脳症に特徴的な局所的脳血流の低下を反映しているものと考えられた。また血流低下部位についての脳MRI検査では全例で器質的変化はみられなかった。次に、急性の精神病様症状を呈した患者群5例について脳血流変化を解析したところ、より明瞭に左前頭前皮質と両側前部帯状回に局所脳血流の低下を認めた（$P < 0.05$）。さらに、この5例において右前頭葉の一部分と両側角回にもわずかな血流の低下を認めた。</p> <p>以上の結果より、大脳における左前頭前皮質と両側前部帯状回は遂行機能や意識・自己認知などに密接に関連し、橋本脳症の病態における大脳皮質の微小循環障害と神経徴候の関連を支持する所見と考えられた。本研究結果は、橋本脳症の多数例において、病態生理と関わる特徴的な局所脳血流の変化を初めて明らかにしたものであり、本学学位論文として十分な価値を有すると判定した。</p>			
（平成 26年 02月 13日）			